

# 平成 28 年度（第 138 期）事業報告書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

公益社団法人東京地学協会

## I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進することを目的とする。

## II. 事業内容

### 1. 公益事業

#### (1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

##### ① 講演会の開催

##### 1) 春季講演会（公開） 「文化地質学」

日時：平成 28 年 6 月 11 日（土） 15:00～18:00（参加者 28 名）

場所：東京地学協会地学会館講堂

鈴木寿志（大谷大学） 「文化地質学一人と地質学の接点を求めて」

原田憲一（至誠館大学） 「平安京はなぜ 1000 年持続したかー文化地質学から考えるー」

蟹澤聡史（東北大学） 「石を旅するー盾状地、テチスの海、沈み込み帯と石文化ー」

奥村大介（東京大学） 「土の夢、石の夢ー大地の想像力のために」

##### 2) 秋季講演会（公開） 「伊能忠敬と現代の地図作り」（伊能忠敬没後 200 年記念事業）

日時：平成 28 年 11 月 26 日（土） 14:00～17:00（参加者 33 名）

場所：弘済会館

星埜由尚（日本測量協会） 「伊能忠敬の全国測量と測量日記」

田中 圭（日本地図センター） 「低空撮ツールによる 3D マッピング」

古橋大地（青山学院大学） 「一億総伊能化を実現するオープンストリートマップ・プロジェクト」

##### 3) 地学クラブ講演会（公開）

場所：第 299 回以外は東京地学協会地学会館講堂、第 299 回はアルカディア市ヶ谷

・第 296 回 平成 28 年 5 月 20 日（土）（参加者 20 名）

大山正雄（日本温泉協会） 「温泉と地熱発電との共存について」

・第 297 回 平成 28 年 7 月 29 日（金）（参加者 29 名）

清水長正（駒沢大学）・澤田結基（福山大学） 「日本の風穴」

・第 298 回 平成 28 年 9 月 9 日（金）（参加者 9 名）

芝原暁彦（産総研） 「大型 3D 地形モデルによる情報分析手法」

・第 299 回 平成 28 年 12 月 16 日（金）（参加者 20 名）

青山雅史（群馬大学） 「東北地方太平洋沖地震による液状化被害に関するインベ

ントリー作成」

田中耕市（茨城大学）「津波からの避難しやすさを評価するエバキュエイタビリティ指標の測定」

・第 300 回 平成 29 年 3 月 14 日（火）（参加者 21 名）

森下泰成（海上保安庁）「西の島火山の噴火と島の拡大」

## ②見学会の開催

1) 国内見学旅行 「宮澤賢治生誕 120 周年記念ジオツアー」

日時：平成 29 年 2 月 12 日（土）～ 2 月 13 日（参加者 14 名）

案内者：加藤碩一・青木正博（産業技術総合研究所）・三橋浩志（文部科学省）

2) 海外見学旅行 「21 世紀の新台湾への冒険－台湾中央山脈横断ジオの旅－」

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月）～ 12 月 3 日（土）（参加者 13 名）

案内者：長田敏明（東京都市大学）・西川由香（国立台湾大学）

## ③広報活動

1) 日本地球惑星科学連合大会（平成 28 年 5 月 22 日～ 26 日）において、展示ブースを設け、協会の概要や最近の講演会及び見学旅行を紹介するパネルを展示した。

2) 協会ホームページの充実を図った。

3) 会員への情報配信システムはメールマガジン方式を採用することとし、「メールニュース」の配信を開始した。

4) 協会記事ほかを内容とした「地学ニュース（地学雑誌において、ページ設定が N で始まる部分）」に関しては、Web 上で過去分をも、削除することなく、継続的に掲載することとした。

## ④日本地学史の編纂

「戦後日本の地学」の最終章となる「研究の成果」のうち、地震学の分野について地学雑誌掲載用の原稿にまとめ、投稿した。陸水学の分野については執筆を進め、地理学、気象学、地質学の分野についても執筆の準備を始めた。併せて、「日本地学の成立」、「展開」で素稿として残されている国立科学博物館、齋藤報恩会などの項目について、調査を進め執筆を開始した。

## ⑤ 図書室の整理

内外の諸学会・機関から送付される雑誌等を受入れるとともに、現在入手困難となっている協会刊行の書籍や地図のデジタル化を進め、順次 Web 公開を進めた。また、地学協会が行った調査研究報告書をデジタル化し、Web の「調査研究」ページへの公開を進めた。

## ⑥ 専門家紹介（ジオエキスパート制度）

5 件の専門家紹介の依頼があり、それぞれに適切に対応した。以下の内容の要望であった。

1) 「豊洲の土壌汚染」の番組作成に当たっての解説者

2) 「福岡市の地盤沈下現象」の番組作成に当たっての解説者

3) 「東京湾の中央防波堤埋立地の所属」の番組作成に当たっての解説者

4) 「グランドキャニオンやカルスト地形」の形成機構についての解説者

5) 「中国の巨大石柱林・張家界の地形」の形成機構についての解説者

また、今後の専門家紹介事業のために、会員各位の詳しい専門内容と協力可能な項目についてアンケートを実施したところ、107名から回答があった。また、これらの回答に関して、専門分野別及び地域別に整理した。

なお、アンケートの整理結果は、専門家紹介事業をより多くの人に利用して貰えるように、近い内に東京地学協会のウェブサイト（ホームページ）に掲載することを計画している。また、引き続き回答を回収し、情報を充実させる予定である。

#### ⑦ 関連団体との協力の推進

- 1) 日本地球惑星科学連合、日本自然史学会連合、地理学連携機構に対して、団体会員としての連携を進めたほか、国際地理オリンピック、国際地学オリンピック、GIS day in 東京 2016 などへの協賛あるいは後援を行った。
- 2) 2016 年国際地学オリンピック日本大会への寄付、地学オリンピック日本委員会への寄付、地理オリンピック日本委員会への寄付など、関連諸団体に財政的支援を行った。
- 3) 日本地球惑星科学連合において、プログラム委員会、環境災害対応委員会などに委員を派遣した。また、日本自然史学会連合、地理学連携機構にそれぞれ運営委員を派遣した。

#### (2) 出版・頒布事業（定款第4条第2号）

①地学雑誌の発行・頒布：会員の研究成果の発表を主目的とした通常号4冊と最新の話題や成果を集めた特集号2冊、全1,017ページ（第125巻第2号から第126巻第1号まで）を発行した。

1) 以下の地学雑誌を発行した。

- i) 第125巻第2号 通常号 p.185-298 7論文及び地学ニュース（N31-N39）他
- ii) 第125巻第3号 通常号 p.299-429 7論文及び地学ニュース（N40-N52）他
- iii) 第125巻第4号 特集号：地方都市の現在 p.431-645 13論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む）及び地学ニュース（N53-N93）他
- iv) 第125巻第5号 通常号 p.647-773 6論文及び地学ニュース（N95-N111）他
- v) 第125巻第6号 特集号：ジオパークの教育力—教育から学習へ— p.775-909 10論文（特集号 Overview 及び巻頭言を含む）及び地学ニュース（N113-N136）他
- vi) 第126巻第1号 通常号+小特集：富士山の地下水 p.1-104 7論文（小特集 Overview 及び巻頭言を含む）及び地学ニュース（N1-23）他

なお、本誌発行1ヶ月後を目途に電子版をオンラインジャーナル（J-STAGE）として公開し、地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。これらの企画・編集のための委員会を、特集号に関するものを含め11回開催した。

2) 第126巻以降は全ページカラー印刷とすることとした。

3) 第126～129巻の印刷・製本請負業者を入札により決定した。

4) 地学雑誌投稿規程の改定、地学雑誌発行規程や地学雑誌編集倫理規程の制定、及び、地学雑誌投稿要領や地学雑誌投稿に関する著者負担金内規の制定など、地学雑誌発行に係る規程類の整備を行った。

②地質図幅等の頒布：国立研究開発法人産業技術総合研究所との間で平成27年に結ば

れた「地球科学図及地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき、同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等出版物を委託販売により頒布し、利用者への便宜を図った。また、海外からの購入希望に対して対応した。今年度の頒布実績は、延 1,342 部、払出総額にして約 208 万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業（定款第 4 条第 3 号）

① 研究等助成：

1) 平成 28 年度調査・研究助成は以下の 6 件を採択した。

千木良雅弘（京大、防災研究所）他 1 名：日本海側新第三紀層分布地の山地解体過程と深部熱水との関係に関する研究

市山裕司（千葉大）：嶺岡・瀬戸川帯苦鉄質～珪長質深成岩類のジルコン U-Pb 年代と岩石学 IBM 弧中部地殻の成因

小疇 尚：北海道におけるアースハンモックの分布と形成環境に関する研究

黒川駿介（東大、院）他 1 名：東北日本中新統珪質堆積物の完全連続層序復元とそこから読み解く気候寒冷化シフト

高橋 聡（東大）：前期三畳紀の南部北上古陸周辺の海洋環境と生態系進化の解明

小口 高（東大）他 4 名：オマーン国バート遺跡群における古水文環境復元のための地形・地質調査

2) 平成 28 年度国際研究集会助成は以下の 3 件を採択した。

下司信夫（産総研）：第 6 回国際陥没カルデラ研究集会、LAVCEI Commission on Collapse Caldera

増田晴恵（大阪市大）：ゴールドシュミット会議 2016、Geochemical Society, European Association of Geochemistry, 日本地球化学会、日本学会会議

池原 実（高知大）：ワークショップ：バイオマーカーの分子・同位体組成から読み解く有機地球化学、日本有機地球化学会

3) 平成 28 年度熊本地震に際して、緊急に研究・調査助成を 3 件採択した。

宮縁育夫（熊本大学教育学部准教授）：2016 年熊本地震によって発生した斜面災害の火山地質学的研究

黒木貴一（福岡教育大学教授）：熊本地震災害の実態に関する長期的・多面的記録方法の検討

鹿嶋 洋（熊本大学文学部教授）：熊本地震に伴う地域産業の被災状況と復興過程に関する地理学的研究

②普及・啓発活動助成：

1) 平成 28 年度には 29 年度から公募する普及・啓発活動助成（出版助成）のためのモデルとして、以下の 2 冊を印刷出版した。

狩野謙一著:伊豆半島南部のジオガイド 地層からよみとく海底活動 山と溪谷社  
島津 弘編著:屋久島ジオガイド 山と溪谷社

2) 以下の要領で、普及・啓発活動助成の募集を開始した。

申請締め切り：平成 29 年 7 月 31 日

交付決定：平成 29 年 11 月 30 日

助成期間：平成 29 年 12 月 1 日から平成 30 年 7 月 31 日まで

出版期限：平成 30 年 7 月 31 日

- ③表彰：東京地学協会メダル及び東京地学協会地学普及功労賞を授与する。その為に、候補者を募集している。表彰に関する実施要領を作成した。

(4) 伊能忠敬没後 200 年記念事業（定款第 4 条第 1～3 号）

- ①伊能忠敬没後 200 年の記念事業を実施するための、特別委員会「伊能忠敬没後 200 年記念事業構想委員会」を昨年度に引き続き設置した。
- ②「地を測り、地を調べ、知識を社会に貢献する」の先駆者である伊能忠敬の没後 200 年を記念し、公開講演会及びパンフレットの作成・配布を行ったほか、以下の各種の事業を検討した。
- 1) 表彰・助成
  - 2) 巡検（国内巡検、旧跡巡訪、海外巡検）
  - 3) 展示（博物館展示）
  - 4) 公開講演会・専門家紹介
  - 5) パンフレットの作成頒布・記念出版・地学雑誌特集号の発行
  - 6) ホームページの設置（事業の総覧・趣旨説明等）
  - 7) 他学会等との共同催事
- ③本事業は、(1) 普及・啓発事業、(2) 出版・頒布事業及び (3) 研究等助成・表彰事業において行う事業の中で、伊能忠敬に関連する場合に、記念事業であることを明記することによって実施した。

2. 収益事業（定款第 5 条）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに必要に応じた改修を行った。東京地学協会の公益事業を安定的かつ継続的に行うため、収益事業等会計から公益目的事業会計へ資金的支援を行った。

平成 28 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。